

2020 年度実施概要

学校名

洋野町立宿戸小学校

採択活動名

宿戸うみプロジェクト

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. うみであそぼう	1	生活・図工・国語
2. 宿戸のすてきをつたえよう！	2	生活
3. 発見 宿戸自慢探検隊	3	社会・総合・国語
4. 防災マップを作ろう	4	社会・総合
5. 森と海のつながり調査隊！	4	総合・理科・国語
6. 宿戸のウニのひみつとは？	5	社会・総合・国語
7. 種市の水産業調査隊	5	社会・総合・国語
8. 海は世界とつながっている	6	社会・総合・国語

取り組みの概要

宿戸小学校は、「宿戸の海を知り、大切にし、共存しながら活かして行ってほしい」という地域の願いを受け、地域の方の協力のもと、宿戸ならではの取り組みが続けられてきた学校である。ただ、地域からの要望で行われてきた体験学習だけがあり、児童の学びとどうつながっているのかが明確ではないところがあった。そこで、ねらいや教科とのつながりを意識してこれまでの体験学習を捉えなおし、海洋教育として実践するに至っている。

今年度も、前年度までの活動を生かし、児童の実態に合わせて変更を加えつつ、全学年の教育課程に海洋教育を位置付け、生活・総合を中心に教科横断的な取り組みを続けてきた。

テーマは、1・2学年「海に親しむ」、3学年「海と地域」、4学年「海と環境」、5学年「海と産業」、6学年「海と世界」である。

○1学年・2学年

宿戸小学校の昇降口には大きな水槽が設置されており、1年生が餌をやりながら地元の海にいる生き物を観察している。6月には、2年生が「稚ウニ放流・乗船体験」をし、7月には、1・2年生で「磯遊び」に出かけ、磯の生き物を観察している。今年度は、その体験を11月の海洋学習発表会で保護者へ伝えることができた。



○3学年

宿戸には「ウニ」「岡谷稲荷神社」「しいたけ」という3つの自慢がある。6月には、ウニ漁見学、荷捌き場見学からのウニに関わる名人への取材活動。10月には、しいたけ栽培場の見学・取材活動。12月には、岡谷稲荷神社への見学・取材活動を行った。地域の地理的条件や気候の特性を生かした自慢について探求する中で、特産にしてきた地域の人たちこそが宿戸の自慢であることにたどり着いた。

○4学年

洋野町宿戸の海岸には明治、昭和の津波供養塔が複数あり、海と共に生きてきた歴史が刻まれている。社会の学習を受け、防潮堤を見学したり、現地避難路を確認したり、地域の自主防災組織の方から防災について学んだ。そのことを生かし、防災マップにまとめた。

植林という体験学習をきっかけに、森・川・海にどのようなつながりがあるのかについて、理科や社会での学習とも関連させながら探求していく。洋野町でおいしい海産物がとれることが当たり前ではなく、つながっている森を育てることが大事であることへの理解を深めることにつながった。

○5学年

ウニをはじめとする水産物加工もさかんな地域である。児童が2年生の時に放流してから3年後の6月には「水産教室」があり、ウニの殻むき体験と試食をする。増殖溝講習会を通して、宿戸の海岸地形を生かした先人の工夫と努力を知る。さらに、ウニ栽培漁業センターでウニの生態、成長について取材し、宿戸の自慢たる理由にせまる。その後、ウニの栽培漁業だけではなく他にも水産業があることを知り、海に関連した仕事とともに海と共に生きる地域の人々についての学びを深めている。



○6学年

まずは世界でどんなことが問題となっているのか調べ、児童各自の課題についてポスターにまとめた。交流し、話し合うことで、地球温暖化、海洋ごみ、マイクロプラスチック問題など、現在地球上では様々

な海洋環境問題が起きていることを確認した。その後、自分たちが住む地域では実際にどんなことが起きているのか探求した。地域の方を講師とする「環境教室」では、合成洗剤や土砂流出による海洋汚染、マイクロプラスチックは大気中にも存在し、生物に影響を及ぼすものであることに学びが広がった。

自分たちができることは何か考えた結果、海岸のごみ拾いを実行した。4か月前にも全校でのごみ拾いを行ったにもかかわらず大量のごみに驚く。外国のごみが漂着していること、ペットボトルやプラスチックごみが一番多いこと、肉眼ではマイクロプラスチックかどうか見分けることが難しいことなど、地域の浜で学んだ。分別にも苦労し、世界で起きている問題は自分たちの身近な問題であることを認識した。

海洋学習発表会、海洋教育サミットでこれまで学んできたことを発表するとともに、他校の取り組みについて学ぶ機会を得ることができた。代表委員会でも地域の浜の現状を伝え、児童会の取り組みとしてのごみ拾いについて提案した。

